有松まちづくりの会

○　日本遺産進捗状況

事業検討グループから令和２年度の事業（案）が提案されました。

・遺産・文化財の調査結果の活用
・ホームページ「有松のまち」の多言語掲載
・長坂南交差点前後に「日本遺産の町　有松」への誘導看板の設置
・有松交差点にランドマークを設置　　など

○　有松まちづくりの会役員会(10月28日)

福よせ雛開催時期（実行委員会より）について、令和２年２月２２日（土）～３月２２日（日）有松東海道一帯で開催することが報告されました。

○　緑区区民まつりで有松をPR(10月26日)

大高緑地で開催された区民まつりで、「日本遺産に認定された有松」をPRしました。

日本遺産についてパネル５枚で説明し、日本遺産認定証も掲げました。もう一つ、形状記憶の絞り体験コーナーも設けました。バッグやランプシェードを絞り染めで作っていました。圧力鍋を使って作るって知りませんでした。また、有松の知名度を聞くアンケートも初めて実施し、８０名ほどの方の協力をいただきました。

大高緑地での様子

桶狭間神明社秋祭り(10月13日)

台風１９号により開催が危ぶまれましたが、伝統ある神明社の秋祭りが盛大に開催されました。

桶狭間の神明社は、有松の天満社が江戸時代後期に建てられるまで有松村の人たちにとっても氏神でした。例祭は毎年１０月第２日曜日に行われ、今年は１３日でした。各町内公会堂から神輿行列が出発し、神明社に勢揃い。神楽、桶狭間太鼓が奉納された後、餅投げ神事が行われました。

神明社での様子

天満社秋季大祭山車まつり開催（10月6日）

朝、今年の秋の祭礼の開始を告げる空砲３発が町内に響き渡りました。10時にまず西町の神功皇后車が祇園寺前を出発し、東海道を東に松の根橋まで約800mを運行。途中、中町の唐子車と東町の布袋車が続きました。松の根橋では車切りが行われ、楫方が山車の片方を持ち上げて回転させます。1時間ほどで3台全てが終わると次の絞会館駐車場まで移動。竹林を背景に勢揃いした3台の山車が、山車ごとにお囃子に合わせてからくりが披露されます。参加者から大きな拍手喝采を受けていました。更に、中町交差点で車切りを１回転だけして西に。祇園寺前に到着。その時のすれ違いも圧巻。切り通し入口でからくりを天満社に奉納後、切り通しで駐機。14時20分頃天満社へ総参りして昼の部は終了しました。

夜の部も、18時からほぼ同様に運行されましたが、夜は山車の周りに200個以上のろうそくが灯った提灯が飾られ、見るも鮮やかな幻想的な光景が至るところで見られました。

5月20日に日本遺産に認定されたことが影響しているのでしょうか、例年以上の見学者が有松を訪れてくださいました。各山車を引っ張る綱に200人以上が加わり楽しんでいました。夜の部でも人出は多く、山車の周りには綱を曳いたり写真を撮ったりする外国の方も多く見られました。

山車まつりの練習風景

10月初め、東町の練習風景の見学に山車会館を訪れました。１階和室では囃子方が笛や太鼓などの練習をしていました。

２階ではまつり前日会館前に置かれる梵天の竹の足元に巻く太いわらを楫方が選んでいました。相談役の濵島さんから概要のお話を伺いました。楫方29人、人形方12人、囃子方25人がメンバーとのこと。いずれも地元、地元出身の方だそうです。

その後、山車の２階に乗せていただき、人形方の仕事を目のあたりに見ることができました。中町の山車と違い、筆を持つ手と繋がっているひもの先の棒で文字盤をなぞって文字を書いているとのこと。担当30数年の字は味わい深いものでした。

この人形は他３人の方との絶妙な連携プレーで動いていることも知りました。

固定された文字盤

子ども神輿

令和元年を記念して「子ども神輿」が行われました。参加されたのは約100人。絞りのはっぴを着て２台の神輿をそれぞれ16人で担いでいました。有松郵便局を出発し、山車会館と中町年行司前で担ぎ手を交代し、西町年行司前でその神輿を降ろし天満社へ向かいました。子どものエネルギーは町を活性させるものだと思いました。

有松小学校花火大会開催(9月28日)

ありめんくらぶ（有小父親会）主催の有小花火大会が有松小学校のグランドで行われました。約１５分間、888発の花火が校庭で打ち上げられ、夜空を彩りました。ロープで区切られた観客エリアを満員にした見物客（児童・両親・祖父母）は、花火を目の前で見て、その美しさに感動していました。

この花火大会は今年で４回目になりますが、当初はPTAの夏まつりの１つの事業として企画・実施されました。現在は独立の事業として「ありめんくらぶ」が行っています。今後も継続して実施したいと話されていました。

有松あないびとのの会　外国語研修会行われる(10月1日)

講演する樋川先生

有松あないびとの会の例会で、初めて外部講師を迎えての英語研修会が行われました。前もって、国際部のメンバーと研修内容の検討もしたのですが、メンバーの英語力はもちろん、積極的に質問する当日の出席者の熱意に、講師の樋川先生は感心されていました。また、樋川先生を有松駅に迎えに行った折り、少し有松の町を案内したのですが、町並みにもいたく感動されていました。

樋川先生を招聘された国際部部長の小池さんは、「先生自身講義に満足されたようです。それでも心配なので参加者に感想を聞くと、好意的な反応でホッとしています」と仰っていました。

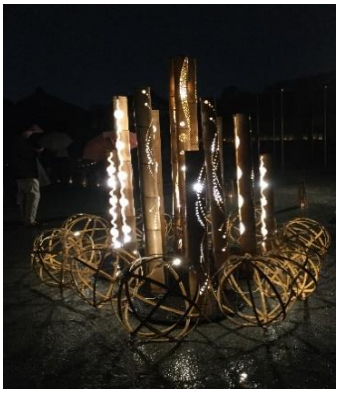
有松小学校2年生　地域学習でコミセン来訪(10月3日)

有松小２年生の皆さん

２年生１５名と先生が「私の町発見」というテーマで、有松コミュニティーセンターを訪ねました。

有松コミセンは歴史的な町並みに合わせた外観になっていることや、２年生が生まれる前の平成19年12月10日にオープンした事などの説明を受けていました。事前にしっかりと勉強して来られたようで、いろいろな質問が出されました。地域のふれ合いと学習の場、防災活動の拠点になっていることや小学生は将棋や囲碁の利用者が多い事など、ノートをとっていました。

有松ミチアカリ(10月19日)



祇園寺境内にて

４回目の今年は、開催時期を早め一夜限りのイベントとなりました。ゲストハウスMADO付近東海道沿いの８軒と祇園寺境内にライトアップされた竹のオブジェが飾られました。

当日は夕方から雨脚が強くなり訪れる人もやや少なめでしたが、有松にふさわしい雰囲気が醸し出されていました。

昼間、竹を設置していた名城大の学生さん達にどうして時期を早めたかの伺うと、中心メンバーの農家の方が忙しい収穫時期を避けたいためとのこと。学生も試験時期を避けられるそうです。今年も素晴らしいイベントを開催していただきありがとうございます。

「つつみ病理診断科クリニック」開業

日本初の「患者さんに顔のみえる」病理診断科クリニックが有松の棚橋家住宅西隣の舛屋で開業しました。院長の堤寛氏は医学博士で病理及び細胞診専門医です。病気治療中の患者さんはいろいろな悩みをお持ちの方が多く,その人の悩みを聞き、今までに培った病理診断の経験に基づく適切なアドバイスやセカンドオピニオンを行って、悩みを持つ患者さんの手助けをしたいとの思いが、堤氏の開業の理由です。

舛屋前の堤院長

病理診断とは、患者から採取された検体を顕微鏡で観察して最終診断することです。細胞診断、生検組織診断、手術臓器・組織の診断や病理解剖が含まれます。

診察や投薬・治療をしない、とてもユニークなクリニックです。

シリーズ地域活動4　ありまつ公園等の掃除

東海道五十三次の浮世絵がベンチに描かれているありまつ公園には、江戸時代の雰囲気が漂っています。その公園を有松老人クラブ連合会「有松さわやかクラブ」の皆さんが掃除してくださっていると聞き、訪問させていただきました。会長の犬飼繚治さんにお話を伺いました。「毎月１日の８：30に集合し、皆でラジオ体操をした後、この公園や小学校沿いの道・国道１号線沿いなどを掃除している」とのこと。国道沿い掃除の班に同行しましたが、落ち葉もゴミも多く大変な作業だと実感しました。このような地道な皆さんの活動があるからこそ、全国から来られる観光客に「有松にはゴミがないね」と言わせるのですね。

このような活動が評価され、今年の老人クラブ全国大会で連合会に所属する有松西中町老人クラブが表彰されたとのことです。

国道１号線沿いでの作業

催事･行事の予定

11月03日(日)　09:45　名古屋タイムスリップ街歩き大合戦　名古屋城
11月09・10日　10:00　晩秋の有松を楽しむ会　有松東海道一帯　実行委員会
11月10日(日)　10:00　サムライ・ニンジャフェスティバル　緑地公園　県観光協会
11月10日(日)　名鉄有松きっぷ販売　終了
11月18日(月)　18:00　有松町並み相談会　コミセン
11月23・24日　10:00　コミセンまつり　有松コミセン、有小体育館　区制協力委員会
11月24日(日)　07:30　かえで道清掃　有松まちづくりの会
11月25日(月)　18:00　有松まちづくりの会　役員会　コミセン

発 行 者:竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会　会長)
編 集 者:加藤　一成(有松まちづくりの会　広報部員)
T･F 052-623-1676　090-4163-2671　E-mail katoisse@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開してます。 有松のまち 検索